

第15回宝塚市手話言語施策推進会議 議事録

日時：令和6年（2024年）2月5日（月）18：30～20：30

場所：宝塚市役所 4階 基幹相談支援センター（3-1会議室）

【次第】

(1) 令和5年度事業報告について

ア 手話講座関連（市民向け及び職員向け ほか）

イ 図書館との共同作業

①手話による絵本の読み聞かせ「手話で楽しむ絵本の世界」

②絵本を使った手話指導「絵本で楽しむ手話の世界」

ウ 宝塚市手話言語条例パンフレットの配布

エ 手話言語の国際デーライトアップ

オ 手話言語の国際デーイベント

カ 第4回宝塚市手話言語発表会

キ 仕事始めの式典

(2) 宝塚市手話月間について

【参考資料】

- ・資料1 令和5年度手話関連事業報告
- ・資料2 令和5年度宝塚市手話月間の取組（案）
- ・資料3 宝塚市手話月間チラシ
- ・資料4 第14回宝塚市手話言語施策推進会議議事録

【出席者】

委員 関西学院大学人間福祉学部非常勤講師 平 英司
宝塚市手話サークル連絡会 会長 田中 準子
宝塚市身体障害者福祉団体連合会 会長 志方 龍
宝塚ろうあ協会 会長 加藤 めぐみ
宝塚商工会議所 中小企業相談所 所長 胡中 美伸

【欠席者】

宝塚市教育委員会事務局 特別支援教育担当副課長 高橋 範充

※順不同

【協議録】

（事務局）

本日はお忙しい中、ご出席をいただきありがとうございます。本会議の趣旨を説明します。本会議は、宝塚市手話言語条例第6条の規定に基づき、市が推進する施策の実施状況、見直し等について、広く市民、事業者、知識経験者の方々に意見をお聞きするために開催をするものです。それでは、以降の進行は、委員長をお願いします。

（委員）

議題に入る前に、令和5年度は手話言語発表会をはじめ、様々な取組を障碍（がい）福祉課が中心とな

って進めてくださり、ありがとうございました。心から感謝申し上げます。それでは、議題に入ります。事務局から報告をお願いします。

(事務局)

議題(1) 令和5年度事業報告については、説明を省略します。各委員の皆さまは、資料をご確認ください。続けて、議題(2) 宝塚市手話月間について説明します。実施する内容は例年通りですが、さらに今年度は、市役所に横断幕とのぼり旗を設置する予定です。手話月間の運営のあり方等、本日の推進会議において、審議いただき決定したいと思います。

(委員)

取組については、大きく分けて宝塚市手話月間の周知、手話の啓発、手話の学習の3つに分かれています。内容については、例年通りとのですが、ご意見はありますか。

(事務局)

案という形で提示していますので、ご意見をいただいて、もし変更がなければ、この案の通り実行する予定です。

(委員)

ふれあいトーク(出前講座)は、どのようにPRしていますか。

(事務局)

市のホームページや手話月間のチラシに掲載しています。

(委員)

宝塚市手話サークル連絡会として、3月の手話月間にちなんで、ふらごこむ1の1階ギャラリーで手話の啓発のための展示を行います。期間は、3月1日～3月末日までの1か月間です。3月3日が耳の日であり、3月の宝塚市手話月間もそこから始まっていますので、「耳の日ギャラリー」と名付けて、ろうあ者のこと、手話のこと、手話サークルのことを知ってもらう展示にと準備をしています。

(事務局)

事務局としても是非、見に行きたいと思います。

(委員)

宝塚市手話月間は、宝塚市の広報誌に掲載されると思いますが、耳の日ギャラリーのことも一緒に載せてもらえれば、PRになると思います。

(事務局)

市の広報誌は、締め切りが過ぎています。今からの追加は、誌面のスペースも限られており、難しいです。また、市の後援名義がある行事のみ広報誌に掲載できます。耳の日ギャラリーだけでの掲載はできませんが、手話月間のPRの余白部分に、こういうイベントがあると掲載できるかもしれません。ふらごこむで行う展示の位置づけをどのように考えるかとも関係があります。ふらごこむは、ボランティアグループが使うところで、市役所が部屋を借りる場合は、制約があります。その扱いによっては、宝塚市社会福祉協議会のコーナーとして掲載することになるかもしれません。社協たからづかには掲載されますか。

(委員)

前もって準備しないといけなかったと反省しています。つい先日、場所を借りたばかりで、広報に掲載してもらったところまで考えていませんでした。来年度は、そういったことも念頭に置いて、準備を進めていきたいと思っています。

(事務局)

社協たからづかは、奇数月の発行で、締め切りが2ヶ月前だったと思います。所管は、宝塚市社会福祉協議会になります。

(委員)

今はもう2月ですので、今年度掲載が難しいのは理解しています。来年度は可能かという意味でお聞きしました。宝塚市の広報誌は、市主催の行事のみを掲載することは、仕方がないと思います。

(事務局)

社協たからづかは宝塚市社会福祉協議会に確認が必要ですが、手続きだけで掲載でき、大体2ヶ月前に締め切りがあります。市の広報誌は、市の主催だけでなく、後援名義の事業も掲載できます。チラシに、主催者〇〇、協賛〇〇、後援〇〇と書いているのをご覧になったことがあると思います。それがあれば、そのイベントだけで掲載することができます。先ほど申し上げたのは、今年度は難しいですが、手話月間の余白部分でぷらごこむでのイベントをPRできるかもということです。宝塚市手話サークル連絡会主催で「こういうイベントをするのでご来場ください」ぐらいは掲載できるかもしれません。

(委員)

わかりました。来年度は、手話月間のPRにあわせて掲載していただけるかもということで、実施が決まった時点で、前もって市役所に連絡をします。

(事務局)

実施の連絡をいただいたら、広報誌の掲載依頼の締め切り日を共有します。取り急ぎ、主な内容をいただき、その後、校正が2回あるので、そこで正しい情報に修正が可能です。

(委員)

その場合、手話月間の取組に加わるということでしょうか。

(事務局)

先ほど、手話月間の取組ではなく、3月3日の耳の日に合わせた取組と言われたように、どういう位置付けで実施するかによります。また、宝塚市社会福祉協議会の所管する場所を借りて行うことなので、広報誌も、社協たからづかにだけ掲載することになるかもしれません。

(事務局)

ぷらごこむでの展示は、宝塚ろうあ協会と宝塚市手話サークル連絡会で行い、内容は市は全く関与していません。宝塚市手話月間の展示は、宝塚ろうあ協会や宝塚市手話サークル連絡会にご協力いただいています。全体の監修は市がしています。そうしたことから、どこが管理するかといえば宝塚市社会福祉協議会になるのかと思います。

(委員)

宝塚市とコラボの場合は、市の取組に含まれ、広報誌も掲載しやすいとのことでしょうか。

(事務局)

そうです。宝塚中途難聴者の会の事業は、市は直接関与していませんが、毎年、後援名義の申請をいただき、広報誌に掲載しています。チラシにも後援宝塚市と記載されています。この事業は宝塚市手話月間ではなく、耳の日の事業として実施しています。従って、今回のぷらごこむでの展示をどのような位置付けで行うかによります。後援名義の申請は、初めての団体は定款の提出、金品の移動がある場合は収支計算書が必要になり、報告も必要です。いろいろ面倒ですが、広報誌に単独でイベントのPRをすることが

できます。後援名義の申請は、必要でしたらまた説明します。後援名義の許可があれば、広報誌の掲載、ホームページにも載せることもできます。

(委員)

話はそれますが、宝塚ろうあ協会や宝塚市手話サークル連絡会以外にも、市民の中に手話に興味のあるグループや今までに手話指導を受けた小中学生、自治会等で展示したい人がいるかもしれません。そういう人に、広報誌やホームページで呼び掛けて、展示をしてもらうことができるのではと思いました。手話の啓発につながる展示ができると思います。あくまで案として提案しました。

(事務局)

市民のグループ、例えばくらんど人権文化センターの手話講座のグループ等に、宝塚市立中央公民館の展示スペースをボード1枚分または半分を公募しますと呼び掛けることは出来ると思います。手話サークルだけでなく、他の市民グループでも展示をしたいと応募があるかもしれません。いろいろな市民の方にスペースを与えるという考えは、よい案です。

(委員)

わかりました。企画を考えることができるか、展示するだけでなく、そういう啓発の方法も含め、相談してみます。企画ができるとなれば、早めに市にも連絡します。

(委員)

7月の会議の時に、今の案についての進捗状況を話し合いたいと思います。短い時間でかまいませんので、ぜひ議題として入れていただき、検討の状況を確認したいと思います。

(委員)

今の案はとてもよいと思います。ただ、どこまで市に関わってもらった方がいいか、その範囲が難しい気がしました。手話の啓発は、宝塚ろうあ協会と宝塚市手話サークル連絡会が担当した方がよい面があると思います。市からいろいろと協力いただいているのは、本当にありがたいと思います。最初に、市の広報誌に掲載が出来るかと聞いたのは、もっと簡単な気持ちでしたが、そこから話が広がっていきました。もし市民を巻き込んで行う場合は、その範囲を決めないと、とても大変になると思います。また、市にどこまで関わってもらうのか、どのようなイメージでしょうか。

(委員)

先ほどの案は、宝塚ろうあ協会と宝塚市手話サークル連絡会と一緒に展示とは別の話になります。宝塚ろうあ協会と宝塚市手話サークル連絡会だけで展示を行うのは、もったいないので広く市民に呼び掛けて、展示をするのはどうかと提案しました。

(委員)

社会の中で、手話はまだまだ誤解がある言語だと思います。市民の方が展示をした場合、間違った内容があれば、誰がそれを統制するかという問題が出ます。それは、手話がわかっている宝塚ろうあ協会や宝塚市手話サークル連絡会と思うので、慎重に考えたほうがよいです。また、市の関わりですが、個人的には、後援名義を申請して、広報誌にも掲載して市の取り組みの1つとして出来ればよいと思います。

(事務局)

広報誌の宝塚市手話月間の枠の余白を使って、ぶらざこむでの展示をPRすることは、宝塚中途難聴者の会が後援名義を申請していることへの整理も必要かと思いました。名義をとらなくても余白で掲載してもらえらるなら、自分たちもそうしたいという意見が出るかもしれません。そのあたりの整理は必要だ

と思います。以前、市の2階の市民ホールで宝塚市手話月間の展示をしたときは、たくさんの展示物を持参してくれました。その後、少しずつ少なくなり、昨年度、宝塚市立中央公民館で実施したときは、ほとんどが慌てて作ったものでした。今までの取組と同じように、もっと貼っていただけたらと思っていて、少ないことに驚きました。市としては、宝塚市手話月間のできた経緯もあるので、耳の日を含む手話月間でPRをしたいと思っています。ぶらざこむで展示をすることも知りませんでした。ぶらざこむと中央公民館に展示するものと分けていただけるのか、規模的にもどう対応されるのか、お聞きしたいです。展示物が少なくなっていることを昨年から感じているので、もう少しご協力いただき、充実したいと思っています。

(事務局)

先ほど、いろいろな市民グループに声をかけるという話がありましたが、少し前までは、宝塚ろうあ協会として、市民の方は、宝塚市手話サークル連絡会の中にあるサークルに入会してほしい。宝塚ろうあ協会が把握していないサークルが出てくると、ろうあ者不在のサークルが独り歩きしていく。そういったことを防ぎたいという考え方があったと思います。今回、市民に広く募集をすることになると、そういう問題をまた考えていく必要があります。手話は言語であるので、自由に、聞こえる人も聞こえない人も誰もが手話という言語を使うことができる一方で、やはりろうあ者として、自分たちの言語を大事にしたいという思いはあるので、その辺のバランスを取っていく必要があると思います。宝塚ろうあ協会としては、全然知らない人が活動している、学校の指導に行っているということが起こりかねません。その整理が必要です。

(委員)

来年度の話がいろいろと出ましたが、この3月から始まる宝塚市手話月間の取組を盛り上げていく方法について、何か意見はありますか。

(委員)

「手話にふれよう」のテレビモニターの手話動画ですが、新しく動画を撮影することは出来ますか。

(事務局)

動画を撮影し、編集、放映するとなると、それに付随するものがいろいろと出てくるため、今から準備するのは厳しいと思います。例えば、以前宝塚ろうあ協会に協力してもらって、市役所のお昼の休憩時間に手話指導をしてもらったことがありました。そういったことも、宝塚ろうあ協会の方は、月・水・金と来なければならず、大変だったと思います。

(委員)

今年度の内容については、十分だと思います。

(委員)

私も今年度の取組については、これでよいと思います。今日の会議でもう少しいろいろなことを考えて企画する必要があると感じました。今回のぶらざこむでの展示も、場所が空いていたのでここで展示ができればいいねと始まったものです。ですから、広報誌でのPRなどは準備が後手になってしまいました。今後は、宝塚市手話サークル連絡会と宝塚ろうあ協会とで企画を計画し、それを市に連絡して後援してもらうかなどを相談しながら進めていく必要があると思いました。それを秋ごろまでに行い、3月の宝塚市手話月間で行えるように進めたいと思います。市には、宝塚市手話言語講演会や宝塚市手話言語発表会に関して、とても協力していただいています。私たちも自分たちに出来ることを考えていかなくて

はいけないと思いました。

(委員)

今年度の掲示の内容については、決まっていますか。

(事務局)

以前、市民ホールで実施したときと同様に掲示していただけたらと思います、中央公民館を借りていますが、展示物が少なくなっている現状があります。逆に、どの程度の展示物を準備していただけるのかお聞きしたいです。その上で、これは中央公民館で、これはぷらごこむでと、分けられるのかと思いました。ぷらごこむで展示をすることは、先ほど聞くまで知らなかったのので、作った物は中央公民館で掲示をしていただけたらと思っていました。

(事務局)

以前、市民ホールでした時は、1回目だったこともあり、作った物をたくさん展示しました。次の年に市役所の1階で展示をした時は、前年作った物を貼りなおしました。新しく作ったのは、マスク着用で困ることだけでした。そして、宝塚市立中央公民館に移った時に、前年度までのものは大きいものが多く、その時は、障害者週間記念事業の展示とスペースが半分ずつということもあって、全部は展示しませんでした。その時に、展示できなかった物をぷらごこむで展示したという経緯があります。昨年度は、3月3日にちなんだ宝塚市手話月間ですというポスターを宝塚ろうあ協会と宝塚市手話サークル連絡会が作成してくれました。市としては、展示物は宝塚ろうあ協会や宝塚市手話サークル連絡会が作成してくれるものだと思っています。ただ、そのすり合わせができておらず、いま慌てて作っているのが現状です。今日は2月5日、あと3週間ほどはあります。どのようなものを作る予定なのか、協力していただけるものと期待をしていますが、そこはどのようにお考えでしょうか。

(委員)

宝塚市立中央公民館での展示について、意見はありますか。

(委員)

今まで展示物は繰り返し使ってきました。汚くなったり、破けたりしたところは、厚紙で直して使っていました。ぷらごこむでは、昨年度は半分のスペースを借りて展示をしました。今年度は、全部を借りられたので、展示の場所が足りないということはありません。

(事務局)

今年はぷらごこむの展示スペースを全部借りたので、宝塚市立中央公民館の展示まで作ることが難しいのであれば、市で考える必要があります。例えば、第4回宝塚市手話言語発表会の時にスライドの上映をしましたが、それを貼ってほしいという意見がありました。宝塚市手話言語条例ができた時からの積み重ねが分かることでした。時間的に今から新しいものを作るのは難しいです。展示スペースについては、市に対してアイデアを出していただきたいです。今年度は、手話指導に行った小・中学校からの感想文を展示します。その展示方法についても意見があれば仰ってください。

(委員)

私の作成資料でよければたくさんあるので、テーマを示してもらえれば用意できます。

(事務局)

今年度は、宝塚ろうあ協会と宝塚市手話サークル連絡会は、ぷらごこむの展示スペースが広いので、宝塚市立中央公民館で展示していただくものがないとなりますか。

(委員)

宝塚市立中央公民館の展示を想定していなくて、申し訳ありません。来年度は大丈夫です。

(委員)

皆さんとも申し合わせができていなくて今回は準備ができていませんでした。展示は2、3年前が多かったので、昨年度は、あれ、今年は少ないのだと思っていました。2年ほど経ってしまったので今ようやくそういう話をだすことができたので良かったです。

(事務局)

市の方から改めて発信をしていなかったの、申し訳なかったです。もう、2月になるので、急ぎ準備をしなければならないです。

(事務局)

学校での手話学習後の感想文がどれぐらい集まるかわかりませんが、展示します。

(委員)

今後ですが、展示物について、どれぐらいの分量で、どんなものなら作成できるのか教えていただきたいです。

(事務局)

これからお互いに展示物について確認をお願いしたいと思います。以前は、なぜ日本手話が必要なのか、ろう者のあるある話をクイズ形式で、デフリンピックの情報等、作成いただきました。

(委員)

ああいう情報は面白いと思ったので、また作成していただきたいです。

(委員)

私個人で、いろいろ作成しているので、どういった内容が良いか、データの中から選んでくだされば提供できます。

(委員)

昨年の国際手話言語デーのライトアップの写真があり、それもぷらごこむで展示するつもりです。

(委員)

国際手話言語デーのライトアップは、市役所の方にご協力いただいたので宝塚市立中央公民館に優先的に貼る方がよいのではありませんか。

(委員)

手話言語国際デーのライトアップのパネルを2枚作る予定なので、それをお渡しすることはできると思います。2月24日に作ります。

(委員)

ぷらごこむでは、宝塚市手話言語発表会の写真は、あくまでも宝塚ろうあ協会で発表したものを載せようとしているので、市民の皆さんから見れば発表者の写真になります。

(委員)

偏った写真とはならないと思います。

(事務局)

第4回宝塚市手話言語発表会で流したスライド写真をプリントアウトして展示してほしいとの意見がありましたので、障害(がい)福祉課が作成したもので展示することを考えます。皆さんは気にされなくて

も大丈夫です。

(委員)

宝塚ろうあ協会と宝塚市手話サークル連絡会は、今年度はぷらごこむに取り組むことでよいと思います。

(事務局)

来年度は前もって協議して決めていきたいと思います。

(事務局)

今年度は、ご提案いただいた第4回宝塚市手話言語発表会で最初に流したスライドをプリントアウトして展示するのと、手話に関する情報を展示すること、小学校、中学校が提出くださる感想文を展示したいと思います。

(委員)

わかりました。

(委員)

手話に関する情報を集めていただくことになりますが、よろしく願いいたします。ほかに宝塚市手話月間に向けて、私たちが準備とか確認しておくことはありますか。

(委員)

大丈夫です。

(事務局)

今年度の宝塚市手話月間については、準備を着々と進めていくという形になりますが、来年度の宝塚市手話月間をどのようにしていくかについて、委員の皆さんは秋ごろまでに決めたらと仰っていましたが、この会議自体が、年に2回、7月と2月なので、来年の3月に向けての案は、次回の7月の推進会議の中で、内容をある程度詰めたいと思います。お考えがあるようでしたら次回の7月の会議でお願いします。もちろん宝塚市手話言語講演会、3月の宝塚市手話月間と盛りだくさんですが、ある程度の方向性を見出したいと思います。

(委員)

今後の進め方の確認ですが、委員は、7月の会議のときに、先ほど言われた、来年度、1年後の宝塚市手話月間の内容の案を提案するということですね。

(事務局)

前もって調整した上で、ある程度でき上がった案を会議で出すことになります。

(委員)

皆さん、一緒に考えていきましょう。

(委員)

7月の会議の前に、どういう内容にするのか、お互いに調整して、考えて、ある程度たたき台を作って会議に持ち寄って確認とお話がありましたが、よろしいでしょうか。

(委員)

案を作るのは大変ですが、6月の上旬には考えておくということですね。

(委員)

宝塚市手話月間について来年度の話も含めて、十分話ができただけかなと思います。お互いに、情報共有不

足もあって、ちょっとずれた部分もありましたが、来年度の内容は案を出していきたいと思います。6月初めには、それぞれ考えて、お互いに情報共有しながら、やっていきたいと思います。よろしくお願ひします。

(事務局)

先ほどの議題の2で、次年度、宝塚市手話月間の運営の話で触れても良かったのですが、前回、7月のこの会議の中で、委員の皆様からご意見をいただいていた、3月の宝塚市手話月間に、子どもたちの手話の動画等を撮影したものを、展示物の前でモニターに映してほしいという意見がありました。

(委員)

はい。

(事務局)

技術的に障害者週間記念事業でも、既にDVDを作成して、モニターで放映したので、可能です。ただ、手話の普及を目的とした映像を、どういう画像の内容にするのか、また、子どもたちを撮影するなら、その撮影した子どもたちに、映像を流しても良いか許可を取る必要もあります。また、その素材等々について編集をする際に誰がするのか、外部に委託をするとその費用面はどうするのかと、課題については整理する必要があると思います。

(委員)

そうですね。

(事務局)

今年度はおそらく難しいかと思いますが、次年度以降に、そういうこともやはり実施したいということでしたら7月の中で協議も可能かと思いますが。

(委員)

子どもの手話の動画を撮って、宝塚市手話月間中に映し出すという案は、今回の3月は難しいので、今後するのかどうか、来年の3月はするかもしれないというお話ですよ。

(委員)

その場合は、委員としては例えば、手話の編集を協力できるよとか、どんなテーマで、子どもの手話を表現してもらいたい等の案もお出しの方がいいですね。

(事務局)

具体的なイメージをお持ちいただけたら、そこ共有をして、検討をすることも可能です。子どもたちへの許諾の問題、もう少し準備に時間が必要との判断になれば、次年度の3月でなくても、再来年度の3月に向けて準備を進める等検討できると思います。

(委員)

わかりました。他に特にないようであれば時間も迫ってきております。次回の会議を事務局の方からお願ひします。

(事務局)

次回の開催ですが、日程は令和6年(2024年)7月1日、月曜日、時間は18時30分開始。最大で20時30分、場所は市役所内会議室を予定しています。よろしくお願ひいたします。

以上